（翻刻）神門郡組下村々産物書出寄帳

田　籠　博

はじめに

ここに翻刻するのは、島根県出雲市立図書館所蔵の未整理文書の中から見出された写本「神門郡組下村々産物書出寄帳」一冊である。大きさは縦二六・五㎝×横一九㎝、楮紙一六枚（墨付き一五枚）の仮綴本で、書名は表紙に直書されている（写真1）。

本書は、享保一九年（一七三四）に江戸幕府の老中が大目付宛に示達し（徳川実記三月二一日条）、翌二〇年閏三月から幕府の官医丹羽正伯が各藩の江戸留守居らに作成を指示した諸国産物帳のうち、出雲国松江藩における産物帳作成の基礎資料の一つと考えられるものである。出雲国産物帳の完本は公開されていないため、本帳記事の一部と三郡の絵図註書帳を欠くほか誤写など種々の問題を含む国会図書館蔵『出雲国産物名疏』に拠るほかなかったのに対して、神門郡の一部地域のものとはいえ、本書は信頼すべき貴重な新出資料ということになる。

表紙に「享保二十年卯五月」とあるが、松江藩が丹羽正伯から指示を受けた日時は明らかでない。金沢藩の産物帳編纂記録である金沢市立図書館加越能文庫の『享元塵餘録』巻二に、閏三月一〇日から二七日まで、八回に分けて各藩の江戸留守居を集めた名簿（計九二藩）が存する。しかし、その中に松江藩は載っていない。名簿に漏れている他藩（福岡藩・鹿児島藩など）では、四月三日に正伯の招きがあったという記録を残しているから、松江藩へもその前後に指示があったのではないかと思われる。江戸から松江へ伝達するのに必要な日数を考慮すると、ほぼ一ヶ月余という驚くべき短期間で基礎資料が作成されたことになる。付箋による記事の訂正・補入があるのも（写真4）、その

間の事情を窺わせる。参考までに記しておけば、浜田藩と津和野藩とは閏三月二一日に指示を受けている。

表紙と識語に見える役人名ついて触れておく。表紙には「組頭　勘右衛門」、識語には「組頭　勘右衛門／下郡宗太郎」とある。『出雲国産物名疏』所収の「神門郡産物」（絵図註書帳）の末尾には、作成に携わった全役人の記名がある。「組頭」として「善蔵・伊左衛門・喜七・勘右衛門・宗四郎・忠左衛門」の六名、その上役である「下郡」として「長兵衛・吉右衛門」の二名である。両者を比べると、「勘右衛門」が同一人であることは問題ないが、本書で「下郡」とされている「宗太郎」が、『名疏』では「組頭　宗四郎」となっている理由は不明である。識語の宛所「松田民右衛門」については、松江藩の『列士録』（島根県立図書館蔵）に記事がある。享保一八年五月二一日に普請奉行から郡奉行に任じられ、元文五年一二月に勘定奉行へ進むまでその役にあった。勘定奉行を一一年間勤めるなど、能吏というべき人物であったらしい。

神門郡内のどの地域のものかについては、記事末の「あら砥石」および付箋7の「鉄類」に見える「口田儀村・奥田儀村」が手掛かりとなる。現在の簸川郡多伎町に同じ地名が残っているから、神門郡西部の日本海に臨む地域のものということになる。本書の記事はそうした自然環境の中で理解する必要があろう。

所収記事（約六〇〇種）の記載状況は、写真で一部を示す通りである（写真2・3）。「穀類」以下の類別に産物を掲げ、さらに品種名を列挙する形式で、翻刻では追い込みとしたが、二段～四段に記載されている。

本書の記事によって『出雲国産物名疏』の誤写を正すことができる例や、語形を確定することができる例は多いが、詳しい検討には別稿を用意する。

本書の存在を教示された岡宏三氏は、既に平成一一年の島根県古代文化センターのホーム・ページ上で本書の内容を紹介されている。本稿を成すにあたってもそれを参考にした。岡氏ならびに原本調査に際して便宜を計らっていただいた出雲市立図書館司書高橋容子氏に謝意を表する。

［補記］

原稿提出後の本年五月三〇日に、島根県古代文化センターの購入した『出雲国産物帳』写本一〇冊（『隠岐国産物帳』三冊を含む）が報道関係者に公開されたことを、翌日の新聞各紙が伝えている。

新聞報道と古代文化センターの岡宏三氏からうかがった話を総合すると、当該写本は、かつて安田健一氏が東京の古書入札会で目堵したという『出雲国隠岐国産物絵図註書帳』一〇冊（『享保元文諸国産物帳集成』第Ⅶ巻「序にかえて」）であることは明らかで、本帳「穀類」冒頭の「早稲」全部と「中稲」の一部が欠けていること、および、島根郡・秋鹿郡の絵図註書帳が備わっていないなどの特徴を共有することから、国会図書館蔵『出雲国産物名疏』の親本であると考えられる。国会本は出雲国松江の地で江戸時代末期頃に書写されたと思われるから、当該写本も当時は松江藩の収蔵本であった可能性が高い。

国会本と比較すると、国会本が片仮名表記であるのに対して平仮名表記であること（国会本には、原写本が平仮名表記であったことを推測させる箇所がある）、輪郭だけを描く国会本に対して彩色絵図であることなど、完本でこそないものの、信頼すべき資料であることは明白である。

本資料の詳細な調査報告は後日を期さねばならいが、本翻刻では国会本の記事を添記する予定であったのを、新出写本の記事と替えることができたのは、古代文化センター当局の格別の配慮による。本資料の出現によって、方言資料としての『出雲国産物帳』の重要性がいっそう明らかになるものと期待している。

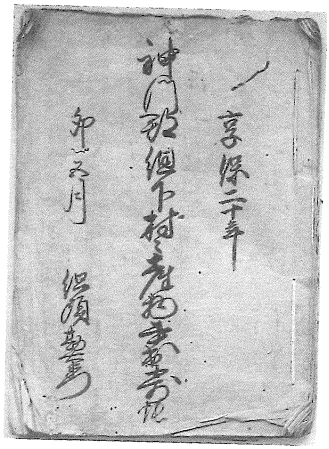

写真1　表紙

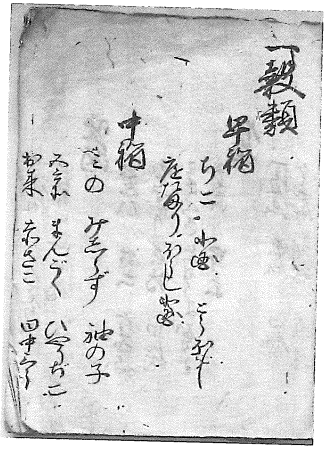

写真2　一丁表

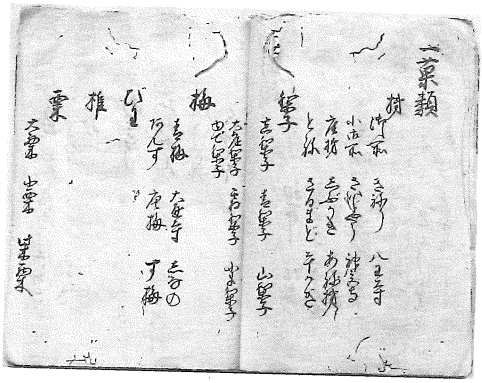

写真3　六丁裏・七丁表

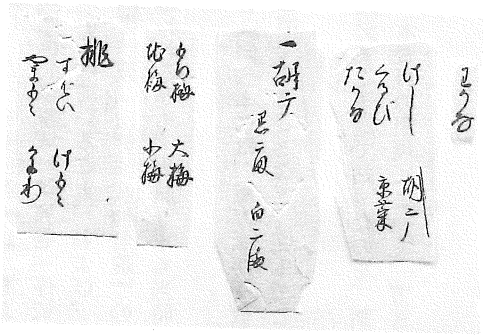

写真4　付箋1～5

【翻刻凡例】

一　漢字は現在の通行字体に改めたが、仮名遣い、濁点は原本のままとした。丁付けは、その末尾の記事の後に示した。

二　原写本には、現在は剥落しているが、付箋が七葉挟まれている（写真4）。各々を適当と思われる箇所に排列し、［付箋］の注記を付して掲げた。

三　原写本の記事には、墨筆による合点や抹消線があるが、可能な限り本文を翻刻して、該当記事には傍線を付して示した。魚類記事に付されている「一」から「十五」までの番号は、原本のままである。

四　記事のうち、島根県古代文化センター蔵『出雲国産物絵図註書帳』（仮題）に所見のあるものは、記事の後に該当記事を（　）内に注記した。比定に疑問のある場合には、疑問符を付す。

五　［　］内に示したのは、原本に存する注記である。

一穀類

早稲

ちこ　北国　とうほし　庭たまり　ほうし北国

中稲

みの　みしらず（よしらす）　袖のこ　五兵衛（五兵衛）　まんごく（万石）　ひやうぢこ　出来（出来）

赤さこ（赤さこ）　田中三郎（田中三郎）」1オ　十石稲（十こく）　矢はつてんちく（矢筈天竺）

但馬ちこ　いせ稲

晩稲

京ゑひ（京ゑひ）　善六（善六）　古子持（ふる子持）　あてすがり（あてすかり）　長嶋（長嶋）

白稲（白稲）　わさくき（わさくさ）　めしばりま（めしはりま）　やかわ（やかわ）　万さい（まんざい）

四郎兵衛（四郎兵衛）

餅稲

一穂仙（一穂せん）　赤餅（赤餅）　白餅（白餅）　からす餅（からす餅）　ぼん餅（盆餅）」1ウ

こざれ（ござれ餅）しひなが　篠原（篠原）　目黒（目黒）　作右衛門（佐右衛門）　いわもと（いわもと）

粟

白粟（白粟）　馬のつな（馬の綱）　黒ずみ（黒すみ）　四国（しこく）　北国（北国）　仁兵衛（仁兵衛）

ひさかう（ひざつかう）　ゆら（ゆら）　くだ（くだ）　石割（石わり）　吉田（よした）

谷わたし（谷渡し）　ゑばきれ（ゑんは切）　吉野（吉野）

稗

四十日（四十日稗）　赤稗（赤稗）　おにひへ（鬼稗）　白稗（白稗）　大もり（大森）」2オ

黍

とうぎひ（たうきひ）　小きび（小きひ）　とう〳〵きび（たう〳〵きひ）

小麦

わちつかう　はまてらし（浜てらし）　穂なか（穂長）　白わちつかう　大谷　白小麦（白小麦）」2ウ

大麦

わさ麦（わさ麦）　大般若（大般若）　六角（六角）　はだか（はたか麦）　餅麦（餅麦）　大口（大口）

せんぼう（せんほう）

蕎麦

はなたか（はなたか）　しなの（しなの）

大豆

北国（北国）　わせ小白（はや小白？）　そらのほし（空のほし）」3オ　六月（六月）　雉子

あかさや（赤さや）　白さや（白さや）　ゑんどう（ゑんとう豆）　おそ大豆（をそまめ？）
あさかい（あすかい）　霜大豆（霜大豆）　そうゑん（そうゑん）　三郎兵衛（三郎兵衛）　黒大豆（黒大豆）
大くろ（大黒）　たんきり（たんきり）　中くろ（中黒）

青大豆
さび青　ずい青（ずい青）」3ウ

赤小豆
だいなごん　かにの目（かんのめ？）　はげわん（はけわん）　中小豆（中あつき）　小あつき（小あづき）
黒あつき（黒小豆）　なんば（たんば）

大角豆
赤とんぼう（あかとんほう）　びやうたれ（ひやうたれ）　どよう（土用さゝけ）　青さゝけ（青さゝけ）
ぼけ（ぼけさゝけ）　あつきさゝけ（あつきさゝけ）　はの下（葉の下）　大しも（大しも）

かつら大豆（蔓豆）
いんげん（いんけん）　なたまめ（なたまめ）　ゑんとう（ゑんとう）」4オ

冬大豆（冬豆？）

一木綿
しそ　地わた　赤ぎ

一菜類
菜
白蕪（白かぶ）　夏菜（夏菜）　せり（芹）　ちさ（萵苣）　なづな（薺）　にら（韮）」4ウ　にんにく
大ねぎ　わけぎ（わけき）　めうか（襄荷）　みつば　あかざ（藜）　ひゆ（莧）　なす　夕がほ（壺盧）
すへりひゆ　しそ（紫蘇）　だて（ヘママ）　しやうが　ふき（蕗）　にんじん（胡羅蔔）　ひづる　からし（芥菜）

唐からし（蕃椒）　たうほう風　子持菜　山ふき（山ふき）　きくな（菊菜）　くれない　ひるな　くさぎな
うと（独活）　ちさ（萵苣）」5オ　近江蕪（近江蕪）　ほう風　わらび（蕨）

大根

真大根（真大根）　夏大根（夏大根）　三月大根（三月大根）　赤大根（赤大根）　紫大根（紫大根）
をわり大根（尾張大根）　ほり入大根（堀うへ？）

芋

里いも（さといも）　山いも（薯蕷）　うづいも　唐いも（とうのいも？）　ゑぐいも（ゑぐいも）
白いも（白いも）

牛房（牛房）」5ウ

［付箋1］　わかな
［付箋2］　けし（罌子）　胡麻　くるび　京菜（京菜）　たかな（高菜）
［付箋3］　一胡麻（胡麻）
黒こま（黒こま）　白こま（白こま）

一菌類

木くらげ（木耳）　初茸（初たけ）　松露（松露）　鼠茸（鼠たけ）　なめすゝき（なめすゝき）
さまつ茸　松羽茸（松葉茸）　青茸（青たけ）　椎茸（椎たけ）　平茸（ひらたけ）　さゞんぼう（さゞんほ）

一瓜類

ゑの木はだ（榎肌）　きふり（胡瓜）　金真瓜　白瓜　青瓜（越瓜？）　うこん瓜」6オ

一菓類

柿

御所（御所）　きねり（木煉）　八王寺（八王寺）　小御所（小御所）　さいじやう（西条）

神宮寺（神宮寺柿）　座柿（座柿）　しぶかき（渋柿）　あね柿　とね（とねかき）
さるまど　平かぎ（平柿）

梨子
真梨子（真梨子）　青梨子（青梨子）　山梨子（山梨子）」6ウ　大庭梨子（大庭なし）　霜梨子（霜梨子）
小ま梨子　ゆて梨子

梅
青梅　大通寺（大通寺梅）　しなの（信濃梅）　あんす（杏子）　唐梅（唐梅）　す梅
［付箋4］もち梅（餅梅）　大梅（大梅）　地梅　小梅（小梅）
［付箋5］桃（桃）
すばい（ずばい桃）　けもゝ（毛桃）　やまもゝ（楊梅）　かにわ（かにはもゝ）

びわ（枇杷）
椎（椎）
栗（栗）
大栗（大くり）　小栗（小栗）　柴栗（柴栗）」7オ
いちご（苺）
かづら（つるいちこ？）　夏いちこ（夏いちこ）　土いちご（つちいちこ）　くわんす　さがり（さかり）
あつき（あつき）
くみ（胡頽子）
あさとり（あさとり）
みつかん（蜜柑）
たい〳〵（橙）

くねんほ（久年母）」7ウ
かうじ（包橘）
きんかん（金橘）
柚す（柚）
ざぼん（ざぼん）
たち花（橘）

一木類

杉（杉）　桧（桧）　松（松）　栗（栗）　樫（樫）　椿（椿）」8オ　榎（榎）　柊（枸骨）　桐（桐）
山升（山椒）　桜（桜）　ねむり（合歓木）　かや（榧）　たぶ（たぶ）　ゆづりは（楪）
もつこく（水木犀）　もくせい（木犀）　たらやう（多羅葉）　いのまき（犬まき）　もみ　せんだん（楝）
もみち（機樹）　しぶ（しぶき）　さゞんくわ（茶梅花）　さつき（杜鵑花）　くちなし（梔）　桑（桑）
ちやな（ちやなの木）　漆木（漆木）　川つばき（川椿）　いぬつげ（野柘？）　南天（南天燭）　はなの木」8ウ
しゆろ（栟櫚）　いぶき（いぶき）　さわら（さわら）　手かじわ（手かしは）　はいの木（はいの木）
しを包（塩包）　たず（たづ）　うつ木（空木）　鼠かたら（鼠かたら）　まかたら（真かたら）
青かたら（青かたら）　なき（なきの木）　けいしん　青木（檍）　あつさい（あづさい）　しで（して）
かうや槙（からやまき）　槙

一草類

麻（麻）　よもぎ（艾）　はんげ（半夏）　たずか　いをつなぎ　ふぢはい（ふしはい）　どくまくり
みちしだ（みちした）　もしを（もしほ）」9オ　かやこ草　しのぎゝ（しのき草？）　山はぎ（山萩）
みそはき（鼡尾草）　まがたら（真かたら）　はいかだら　鏡くさ（かゝみ草）　こがね草（こかね草）
さる取かだら（猿かたら？）　土うるし（土おろし）　しば　からしば（唐しは）　しやうぶ（菖蒲）

せきしやうぶ（石菖？）　ぎほうし（玉簪）　すい花かつら（すいは？）　かにもしを　すゝめの舌（雀のした）
すくも草（すくも草）　くすば　ゑの木草（榎草）　かきとうし（積雪草）　のぶし（野ふし）
川すげ（川すけ）　ひやくぢつ（百朮）　ゑのこ（狗尾草）　一つ葉（一つ葉）」9ウ　くらゝ（苦参）
せんふり（せんふり）　山みる（やまひる？）　山にゝく（山蒜）　ぜんまい（紫萁）　きけう（桔梗）
おもと（万年青）　てんなん草（天南星？）　せんにん草（仙人草）　からよもき（青蒿）
おとぎり草（劉寄奴）　かきつばた　山ゆり　畑ゆり　ふで花草（ふてはな）　すまふ取草（すもふ取草）
古むしろ　田なき（浮薔？）　つらわれ（つらわれ）　丸すげ　秋ぼこり（秋ほこり）　やわら（やわら）
うしのけ（牛のけ）　赤かしら（赤かしら）　田もば　すゞめ草（雀のした？）　田からし（田芥）」10オ
いがら（いから）　がぜ　田おばく　しまのめ　山びちう（山びせう？）　つゆもち（つゆもち）
いのたで（馬蓼）　またで　川らたで

一竹類

真竹（真竹）　こちく　にが竹（にか竹）　まの竹（真竹）　しの竹（篠竹）

一魚類

どじやう（泥鰌）　一砂むくり（砂むくり）　二砂くぢり（砂鰌）」10ウ　鯛（鯛）　鯖（鯖）　鯵（鯵）
いさき（いさき）　三ほつかう（ほつか）　いわし（鰮）　ちんだい（ちん鯛）　かれい（鰈）
あかゑい（海鰩魚）　ならさば（なら鯖）　海うなぎ　四川うなき（鰻）　十六鮎（鰷魚）　五ゑひ
いか（烏賊）　六ゑびな（ゑひな）　もつ　大なぎり（大なきり）　おこうぜ（をこし？）　こびる
ことうち（骨頭魚）　さゝいわに（さゝい鰐）　十四鯉（鯉）　十五鮒（鮒）　うなぎ（鰻）
七さつこ（雑喰）　はへ（鮠）」11オ

［付箋6］　九なまず（鯰）　十布魚（ぬのいを）　ゑびな（ゑひな）　十二せいこ（せいこ）　十三ないし
さわら（馬鮫魚）　いさき（いさき）　きすご（きす）　なよし（なよし）　十一ねふつこ（二歳子？）

鱸（すゞき）（鱸）　海かに［貝の内入］　浜かに［同断］

一貝類

あわび（石決明（あわび））　さゞい（栄螺）　海にな（海にな）［此と虫の入る］　川にな（川にな）　もべ（もへ）
おうぜがせな　塩ふりにな（塩にな？）　にし（辛螺）　鳥のゑぼし（鳥ゑぼし？）　かぜ　ぼべ（ほべ）
はまくり（蛤）　田にし（田にし）　からすがい（からす貝）　かに（蟹）

一鳥類

くひな（水鶏（くいな））　鶯（鶯）　ひよ鳥（鵯（ひよどり））　けゞし　すゞめ（雀）　しよにん（しよにん）
もず（百舌鳥（もず））　けらすゝき（啄木鳥（けらつゝき））　みそさゞい（みそさゝい）　黒鳥　ひばり（雲雀）　にわ鳥（鶏）
よづく（よつく）　浜千鳥（浜ちとり）　つぐめ（鶇（つぐみ））　山から（山雀）　しとと（鴉（しとゝ））
ほうしろ（画眉鳥（ほうしろ））　日くらし（ひくらし）　川原雀（かはら雀）　とき（紅鶴（とき））　すんない雀（ぐんない？）
よめ鳥（よめとり）　ほとゝぎす（杜鵑（ほとゝきす））　せきれい（鶺鴒（せきれい））」11ウ

水鳥

かう（鴻（こうのとり））　白鷺（白鷺）　青鷺（青鷺）　鵜（鵜）　かいつぶり（鸊鷉（かいつぶり））　とき（紅鶴（とき））
うわし鴨（うはし）　黒鴨（黒かも）　びしやご（鷿（みさご））

山鳥

雉子　山鳥（鶯雉（やまとり））　鳩（鳩）　かげす　鷹（鷹）」12オ

渡鳥

鶴（鶴）　鳳（雁）　鴨（鴨）

此類十月より参翌三月迄居申候

同

三光　つばめ（燕）　こま　みやまつばくら

此類三月より参九月頃迄居申候

一獣類

猪（野猪）　鹿（鹿）　熊（熊）　大かめ（狼）　猿（猿）　きつね（狐）　たぬき（狸）　うさぎ（兎）
ねこ（猫）　ねつみ（鼠）　いたち（鼬）　てん（貂鼠）」12ウ　川うそ（獺）　まみ（貒）　むくろめ（鼴鼠）
いぬ（犬）　むじな（貉）

一亀類

とり亀（鳥亀）　石亀

一虫類

まい〳〵づぶり（まい〳〵つぶり）　かたづぶり（ママ）　なめくじり（蛞蝓）　ちやう（蝶）　とんぼう（蜻蜓）
はち（蜂）　あぶ（虻）　けら（螻蛄）　くも（蜘蛛）　せみ（蝉）　はげ虫（はけ虫）」13オ　けむし（けむし）
たま虫（玉虫）　すゞむし（金鐘児）　松むし（松虫）　ほたる（蛍）　ごきあらい（ごきあらい虫）　あり（蟻）
みゝず（蚯蚓）　かいる（蛙）　むかで（蜈蚣）　けんじき　いもり（龍盤魚）　きりこ（きりこ）
おんな虫（をんな虫）　ひいる（水蛭）　いちごやもめ　はい（蝿）　いだんぼ（いたんほ）　かうむり（蝙蝠）
きりうし（きりうし）　か（蚊）　子おひ虫（子負虫）　百なり虫（百成虫）　はいとり（蝿虎）
いなんこ（蝨）　ぎいす（きいす）」13ウ

一蛇類

まむし（蝮）　さかを（さかを）　からす蛇（烏蛇）　山しば（山しば）　ひばかり（ひはかり）
とかげ（石龍子）　なぶさ（なぶさ）　やもしり

一草木の葉給候物

大豆の葉（大豆の葉）　小豆の葉（小豆の葉）　いたどり（虎杖）　くさ木の葉（臭梧桐葉）」14オ
もちの木の葉（もちの木の葉）　わらひの根　ゑの木の葉（榎の葉）　りやうぶの葉（りやうぶの葉）

かきの葉（柿の葉）　うこぎ（五加）　もしを（もしほ）　たんばの葉（たんばの葉）　まいみの葉
むくげの葉（むくけの葉）　いのこの根（いのこの葛）　ところ　木ところ　ぶしの葉（ふしのは）
しんざい（しんさい）　おんぞく　とう草（たうくさ）　よもき（艾）　はいこり（はいこり）
うこぎ（五加）」14ウ

あら砥石（荒砥石）　口田儀村　但山の名ちんがねちと申候
［付箋7］　一鉄類　奥田儀村
銑（銑）　（鉧）　長割　千割

（識語）
右之通此度被為仰付候産物村々
委細遂吟味有懸り無残書出
村別帳面差上申候所相違無御座候
已上
組頭　勘右衛門
五月　下郡　宗太郎
松田民右衛門様　」15オ